

SCIENCE AGORA

あなたと創るこれからの科学と社会



サイエンスアゴラ2014 開催報告書

サイエンスアゴラ2014概要

サイエンスアゴラとは

今年で9回目の開催となるサイエンスアゴラは、子ども向けの理科実験、トップ科学者との対話、市民参加の科学議論など、誰もが参加でき、科学と社会の関係をつくる日本最大級の科学イベントです。科学技術の楽しさを伝え、興味関心を喚起するだけでなくとどまらず、科学技術をめぐるあらゆる課題、私たちの社会の未来像について、政治家、行政、マスコミ、産業界、研究者、その他科学コミュニケーションに関わる方々、一般の方々など、さまざまな立場の方々が参加し、情報共有、対話を行う場をつくることを目指しています。



2014の開催趣旨・テーマ等

サイエンスアゴラは、その大きな目的の1つを、日本全国の科学コミュニケーション人材が一堂に集結し、お互いの活動や知見を交流する場として機能してきました。過去8回の開催により、モデルケースとすべき活動が全国に展開されつつあり、科学コミュニケーション人材が着実に育成されるなど、サイエンスアゴラが科学コミュニケーションの見本市として果たしてきた役割は大きいと考えられます。一方で、サイエンスアゴラを一般社会にとってより有用な場としていくことを考えると、



- ・「研究者・専門家と社会の多様なステークホルダー（市民、メディア、産業界、行政・政治）との対話の場を提供する」
- ・「科学技術と社会の関係性についてのあらゆる『科学コミュニケーション』を深化させる」
- ・「科学コミュニケーションを通して、本当に社会に役立つ知恵を創り出すことに貢献する」

という観点においてはまだ十分機能しておらず、とりわけ現状では、研究者・研究コミュニティの参画が著しく不足しているといわれてきました。

このような点を踏まえ、9回目の開催となる「サイエンスアゴラ2014」では、研究者・研究コミュニティの出席を数多く集結させることとしました。その上で、今までの科学コミュニケーション人材同士の交流はもちろんのこと、新しく参画した研究コミュニティとも積極的に交流し、かつ、そこで得た知識を多くの市民へ広げてもらうことを期待しました。

サイエンスアゴラ2014の重点取り組みとして、以下の2点を掲げることとしました。

(1) 研究者（コミュニティ）の参画による企画の充実

研究者コミュニティに内在する課題※の議論

※学術領域融合、社会との相互作用、研究倫理、人材育成 など

JSTバーチャルネットワーク型研究所を通じた参画の促進

(2) 科学技術に関わる多様なステークホルダーの参画

メディア・出版業界、産業界、政治・行政、一般市民、次世代人材 など

今年度の重点取り組みの方針を踏まえ、サイエンスアゴラを多様なステークホルダーが集い、自らの未来に関わってくる科学と社会の関係について語り合い、何らかの気づきや成果を得てもらおう場としたい、という思いを込めて、以下のテーマを設定しました。

サイエンスアゴラ2014テーマ「あなたと創るこれからの科学と社会」

2014の運営面での主な取り組み

- ◆多様なステークホルダーの参画を図るため、初めて11月7日（金）の平日に終日で開催。
- ◆アゴラの趣旨を象徴する開幕セッション、アゴラキーノートセッションなどを実施。幅広い参加を得るため国内外より政治・行政、産業界、研究者コミュニティのキーパーソンを招聘。
- ◆次ページのようにチラシ等による周知範囲を拡大したとともに、プレス向け記者会見の設定、メディア戦略を踏まえた企画を実施。JST内出版物については、アゴラ特集などを4誌で展開。
- ◆会場は出展企画の対象者別に配置。配布プログラムの形状を変え、携帯しやすいように。
- ◆会場となる各施設（共催機関）と協力し、それぞれの研究施設見学や研究成果説明などを実施。
- ◆交代昼休み制度を導入し、出展者負担の軽減を図りました。
- ◆引き続き、サイエンスアゴラ賞の表彰を実施するとともに、出展者交流会や出展者交流カードにて、出展者の交流を図りました。

■開催概要

日 程：平成26年11月7日（金）、8日（土）、9日（日）

会 場：日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター、東京都立産業技術研究センター、東京国際交流館、シンボルプロムナード公園、フジテレビ湾岸スタジオ

主 催：独立行政法人科学技術振興機構

共 催：独立行政法人産業技術総合研究所、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター、独立行政法人日本学生支援機構、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ

協 力：株式会社フジテレビジョン

後 援：内閣府、文部科学省、日本学術会議、独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人理化学研究所、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人海洋研究開発機構、独立行政法人日本原子力研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、臨海副都心まちづくり協議会、一般社団法人日本経済団体連合会、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本科学技術ジャーナリスト会議、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会、科学技術社会論学会

参加費：無料 ※企画により一部有料（材料費等）

参加方法：自由参加 ※企画により一部事前登録が必要な場合あり



サイエンスアゴラ推進委員会

関係機関、外部機関メンバーによる「サイエンスアゴラ推進委員会」を設置し、各種推進にかかるアドバイスをいただきました。また、事前から当日までアゴラの盛り上がり貢献いただきました。

- 一般からの応募企画に関する査読審査
- サイエンスアゴラ賞の審査、特別賞の設置
- アゴラ全般へのアドバイスと出展者等の交流企画の検討
- 地域連携と広報協力、各機関での企画の出席
- 総括セッションにおける今年度のアゴラの講評

委員長	北原 和夫	東京理科大学大学院科学教育研究科 教授
委員	縣 秀彦	自然科学研究機構国立天文台天文情報センター 准教授
委員	池田 知樹	株式会社フジテレビジョン 事業局次長 兼 販売企画部長
委員	北川 浩二	パナソニック株式会社パナソニックセンター東京 企画チーム リーダー
委員	小泉 周	自然科学研究機構研究力強化推進本部 特任教授
委員	小出 重幸	日本科学技術ジャーナリスト会議 会長
委員	佐々 義子	特定非営利法人くらしとバイオプラザ21 常務理事・主席研究員
委員	高梨 直紘	東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム室 特任助教
委員	高安 礼士	千葉県科学館 プロジェクトアドバイザー
委員	長澤 友香	静岡科学館る・く・る 館長
委員	中島 秀人	東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授
委員	花田 康行	独立行政法人産業技術総合研究所 臨海副都心センター 所長代理
委員	春山 賢男	埼玉県教育局 県立学校部 部長
委員	美馬 のゆり	公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授
委員	山口 祐一	東京都 港湾局 総務部 企画担当部長

広報ツール制作・配布・掲載

印刷部数

ポスター／2,500部
チラシ／一般向け版：239,000部、専門家向け版：6,000部

主なポスター／チラシ配布・掲出先

近隣小中学校(9区495校)、関係機関30箇所、科学館・博物館等38箇所、図書館・公共施設185箇所、郵送1,300箇所、サイエンスウインドウ同封11,500箇所、産官学連携ジャーナル同封700箇所、江東区出張所238箇所、港区台場支所等2箇所、大学等6大学、商業施設(アクアシティお台場、ダイバーシティ東京)、交通広告(①中吊り：東京メトロ有楽町、副都心線、②駅貼り：JR—新橋、大崎、新木場、東京メトロ—新橋、虎ノ門、霞ヶ関、豊洲、りんかい線、ゆりかもめ線)、イベント：イノベーションジャパン(9/11~12)など

主な掲載媒体

【TV・新聞】

フジテレビ「プレミアの巣窟」、NHK「首都圏ニュース845」、フジテレビ「FNNスーパーニュース」

科学新聞、原子力産業新聞、全私学新聞、週刊文教ニュース

【雑誌等】

ニュートン 12月号、日経サイエンス 11月号・12月号、理科教育ニュース10/28号、月刊「化学」11月号、

東京シーサイドストーリー 11月号、現代化学 11月号、江東区報10/8号、情報管理第7号・第8号、

産官学連携ジャーナル 9月号・10月号、サイエンスウインドウ 秋号、JSTnews11月号

【メールマガジン】

「科学技術館メールマガジン」、「マナビー・メルマガ」、「初中教育ニュース」、「日本学術会議ニュースメール」、「JSTニュースメールマガジン」、

「理科ねっとわーくメルマガ」、「理数大好きNews」、「日本科学未来館 MiraiKan News」、「JST産官学連携メールマガジン」

【WEB掲載】

・Yahoo!ロコ(地域情報)、朝日新聞デジタル、excite、BIGLOBE旅行、パナソニック おでかけ旅ガイド、富士フィルム Fotonoma、日本旅行、

ニコン すぽっとサーチ、アパホテル、まちこみZAQ(J:COM)、表示灯 e-NAVITA、livedoor地図情報、Walkerplus(KADOKAWA)、ゆこゆこ

・フジテレビWEBサイト



開催結果

サイエンスアゴラ2014実績

参加者数 ▶ 計10,142人

	11/7(金)	11/8(土)	11/9(日)	計
来場者数	855	2,517	4,006	7,378
招待者等		27		27
出展者数		2,710		2,710
プレス		27		27

※参加者バッジの配布数により集計 バッジは3日間共通のため、複数日参加も1名とカウント

出展団体数 ▶ 計172団体

プログラム数 ▶ 計188プログラム

出展企画の内訳(出展形式別)

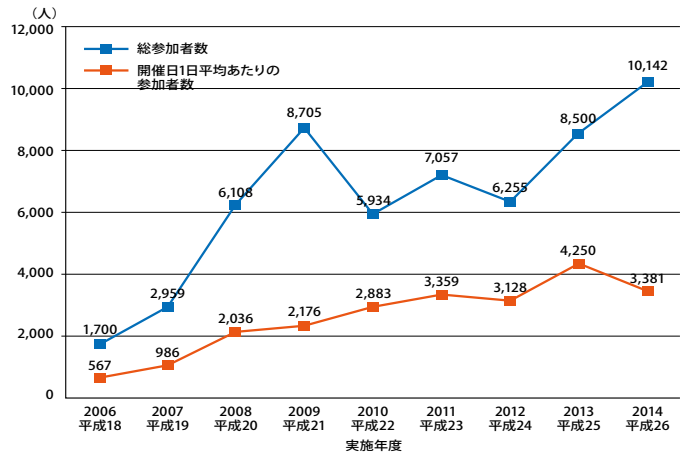
	プログラム数	全体比率
ブース展示合計	131	—
ポスター発表	12	6%
展示・実演・説明	75	40%
実験・工作	28	15%
対話型ワークショップ	13	7%
その他	3	2%
セッション枠合計	57	—
シンポジウム・トークセッション	29	15%
ワークショップ・サイエンスカフェ	26	14%
サイエンスショー・上映・演示	2	1%
合計	188	100

出展企画の内訳(出展対象別)

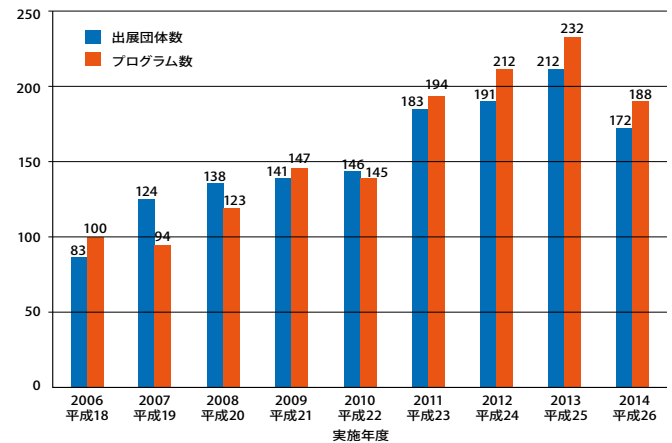
	ブース展示	セッション枠	合計	
			プログラム数	全体比率
一般大人	36	25	61	32%
出展者・専門家	16	11	27	14%
大学生・大学院生	5	1	6	3%
中学生・高校生・高専生	32	14	46	24%
小学生以下	38	4	42	22%
その他	4	2	6	3%



年度別参加者推移



年度別出展団体数・プログラム数推移



来場者アンケート結果

1. 来場者登録 (性別・年齢・属性のみ)

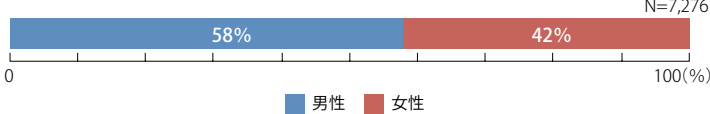
- ①対象期間: 2014年11月7日(金)～11月9日(日)
- ②登録数: 7,314名
- ③回収方法: 受付時に登録用紙を配布。総合受付、会場案内所にて来場者カードと引き替えに回収。

2. アンケート関係 (上記以外の項目)

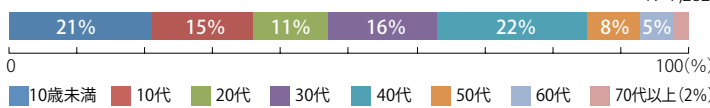
- ①対象期間: 2014年11月7日(金)～11月9日(日)
- ②回答数: 277件(対象者数: 7,341名)
- ③回収率: 3.7%
- ④回収方法: 受付時にアンケート用紙を配布。総合受付、会場案内所にて回収。
※両者とも未回答者を除いた割合。

設問: あなたについて教えてください

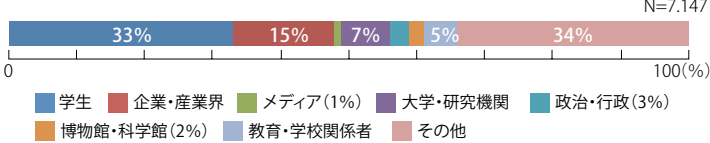
①性別



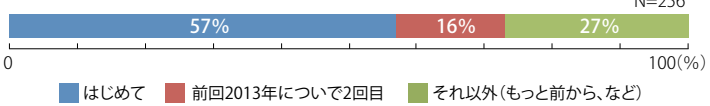
②年齢



③職業

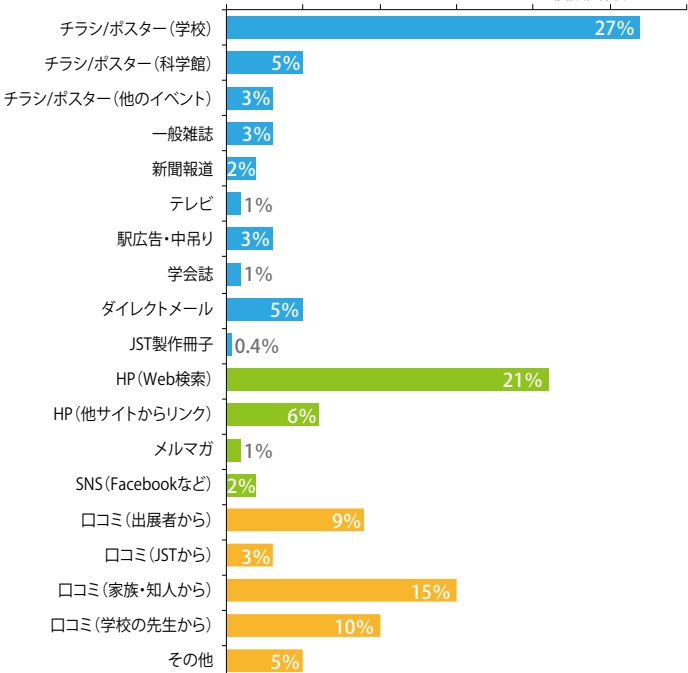


④参加回数



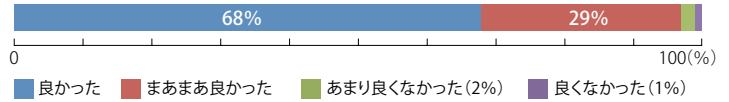
設問: あなたは、サイエンスアゴラ2014をどこで知りましたか? あてはまるものをすべて選んでください。

複数回答、N=274



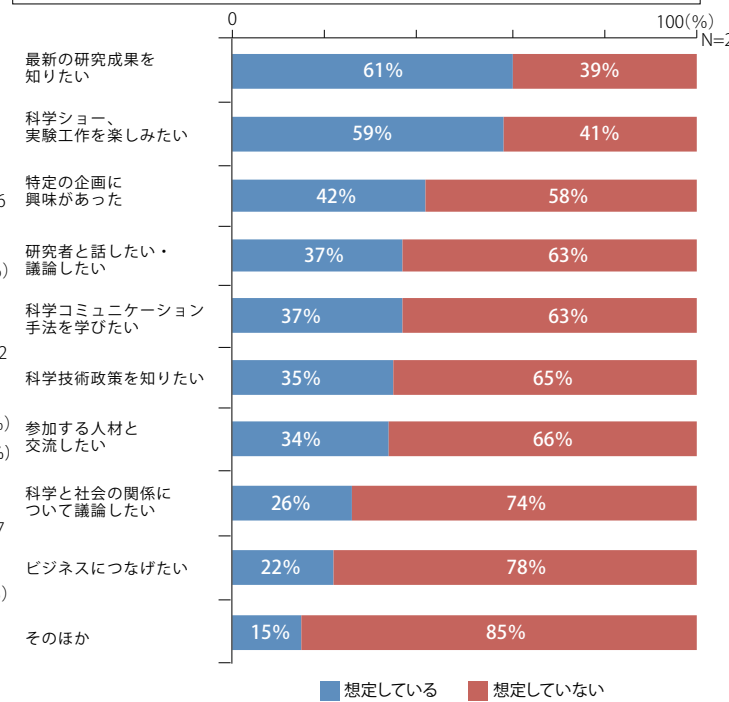
設問: あなたの今日の感想を教えてください。

N=274



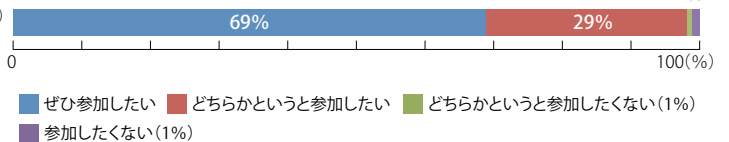
設問: あなたが来場した目的を教えてください。

N=274



設問: このようなイベントにまた参加したいと思いますか?

N=265



来場者のみなさまより

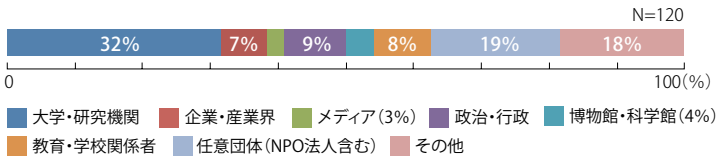
- あまり混雑もしていなくて、子供とゆっくり実験したり、見学できたり、あそべたりしてとてもよかったです。たくさんイベントがあって、とても1日ではまわりきれないのが残念。タイトルだけでは何をやるかがわからず、選ぶのをとても悩みました。タイトルだけでなく、内容もあればもっとよかったです。
- このイベントのおかげで子供が科学に興味を持つことができました。とても素晴らしいイベントだと思います。
- サイエンスと一括で言っても、「これも?」と思う色々な企画があって楽しめました。
- 公民館、学校などで科学普及にたずさわる人が手法などを勉強できる場があると良いです。
- 科学(技術)に普段接する機会がない中で様々なコンテンツにふれることができるととてもよかったです。このようなイベントが地方でも開催できるといいと思います。首都圏と地方の科学にふれる機会が極端に違うような気がします。このままでは地方の理科離れがどんどん進むのでないかと考えています。
- 今回も科学のことを子どもにも理解できる解説だったので、分かりやすかった。今回は、出展ブースがとても高度だったので、大人でも楽しめた。ただ、整理券配布の実験や工作は、せっかく足を運んでも終了していることがあったのでパンフレットに載せて告知して欲しかった。
- 子供達が楽しんで参加できました。スタッフの皆さんが、子供に楽しみを味わえるように配慮して下さいありがとうございました。

■出展者アンケート結果

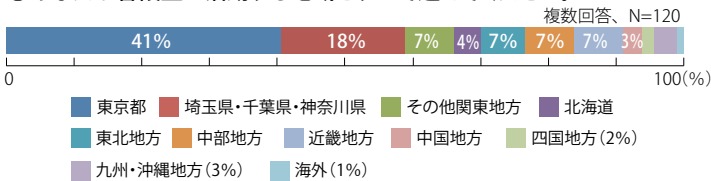
調査方法：全出展者を対象にオンラインフォームから回答受付
 調査期間：2014年11月18日(火)～12月1日(月)
 回答数：131件(うち、有効回答数：120件)

設問：あなたについて教えてください。

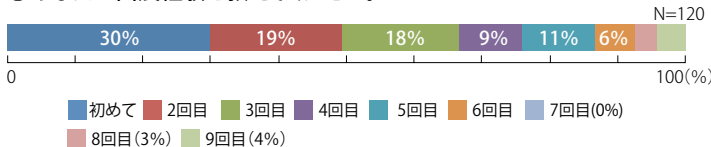
①ご出展主催者の分類として適切なものを1つだけ選んでください。
 (複数機関の共催でも1つだけをお願いします)



②あなたが普段主に活動する地域をすべて選んでください。

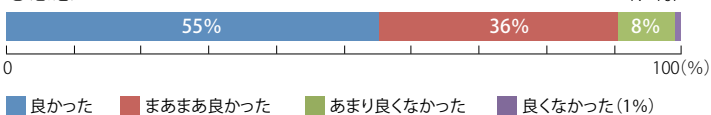


③あなたの出展経験を教えてください。



設問：あなたのサイエンスアゴラ2014への感想を教えてください。

①感想



②あなたは、サイエンスアゴラ2014について感じたことをひと言で言うと・・・

- 声の大きな“市民”ではなく、本当の一般市民の声を聞くことができ、自分たちの研究に対する“本当の社会受容”を感じることができました。
- 3日間は長いように感じたが、初日は一般の来場者とは目的を異にする方々に会えたのは有益でした。
- 本年度も、来場者・参加者ともに非常に多くの方々と直接対話出来る機会を持ったので、とても有意義な2日間でした。サイエンスアゴラの様な規模のイベントはあまり無いので、来年度も是非参加したいと思います。
- 所属や分野が違う方と「つながり」ができ、とてもいい経験になりました。
- 広範な科学技術の先端分野の出展に、地域や年齢など様々な来場者が集まり、普段は触れ合うことが少ない方々との交流が図られ、大変有意義な内容でした。
- エリアを対象者別、企画属性別にしたことで、来場者は効率よく目的の企画に参加できました。そのため来場者が途切れることなく確保でき、出展者相互の交流も促進されました。
- 主催者側の考え(アゴラの方向性)の変化がよく分かる回でした。地域でもアゴラをイメージした大型科学イベントは増えていますが、それらとの違いを改めて考えさせられる機会となりました。
- 各会場が離れているので、端のブースにいと、全体の盛り上がり感を感じることができなかった気がします。個室スペースをたくさん使うより大きなホールでの開催のほうがまとまり感があってよかったと思います。

設問：あなたは、サイエンスアゴラ2014のテーマの精神がイベント全体から感じ取れましたか？

(※サイエンスアゴラ2014テーマ：あなたと創るこれからの科学と社会)

1 テーマの精神は感じられた。ただし、今回試行した金曜日は、まだまだ発展途中である印象を持ちました。サイエンスアゴラは、科学と社会の関係について語り合い、楽しいイベントであることをもっと前面に出しても良いと思います。

2 「社会のこの課題に対して、この科学で解決法を提案したい」というようなことが感じられる企画がいくつかありましたが、自身の企画も含めて、社会の課題との関係性や、これからの社会にその科学がどんな影響を与えるか、という視点がおさえられていないものもあったように思います。テーマの意図するところは、聞きかじり程度でもサイエンスコミュニケーションのことを知っている人には読み取れると思うのですが、社会との関係の中で科学が存在しているものだという認識が薄い一部の研究者にとってはこのテーマの意味は分かりにくいかもしれません。

3 科学的な研究を推進するうえで、社会の理解は必要になると思われるので、今回のテーマ設定は良かったと思います。また、出展された各ブースにおいて、最新の研究成果を分かりやすく紹介しており、それがイベント全体に広がっていたと思います。

4 設定されたテーマには強く賛同するが、研究グループによる研究成果の報告・紹介が例年になく多く、「あなたと創るこれからの科学」ではなく、「私がしている科学」の展示会という印象が強くなりました。

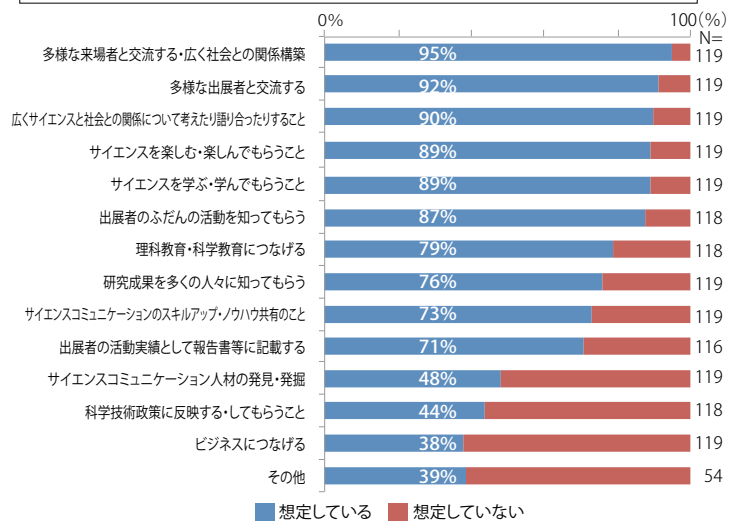
5 テーマの趣旨である「科学と社会の関係について語り合い」や「何らかの気付きや成果を得てもらえる場」という部分は、イベント全体及び自分たちのブースでの展示では感じ取れました。テーマ設定については、これだけ大きなイベントのテーマなので、具体的に設定することは難しいと思いますが、若干曖昧で漠然としているという印象を受けました。サブテーマなどを設けて、分かりやすい目標等をいくつか設定して頂けると、より意図に沿った出展内容も準備できるかと思います。

6 イベント全体からテーマの精神を強く感じることはありませんでした。テーマの公開が遅いような気がします。テーマに合致するように出展内容を工夫するには十分な時間が必要だと感じました。

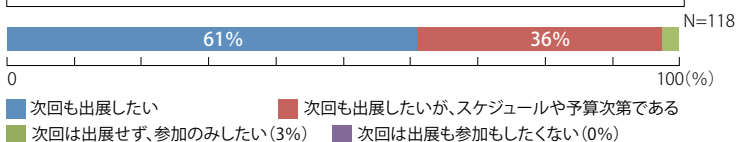
7 多様な人を巻き込もうとする企画や、現実として多様な立場の方が参加・来場されていることは感じられました。テーマに使われる言葉が、もっと一般の人も巻き込める柔らかさ・緩さがあるとより良いのではないかと感じました。

8 一般来場者のみなさんに、「あなたも、これからの科学・社会を創りあげていく一員です」というメッセージを感じてもらえていれば嬉しいです。

設問：あなたが、サイエンスアゴラ2014に出展した目的・動機を教えてください。



設問：次回のサイエンスアゴラはいよいよ10回目となります。ご出展の意向をお聞かせください。



サイエンスアゴラ2014では、開催趣旨を具体化する象徴的なセッションとして、開幕セッション、キーノートセッションを開催するとともに、2014年の多様な挑戦を振り返る総括セッションを開催しました。開幕セッションでは、国内外の政府機関、科学技術機関のキーパーソンに登壇いただき、サイエンスアゴラの意義について、主催者メッセージを発信しました。キーノートセッションでは、最近の科学技術の注目トピックスを幅広くかつ深く考察しました。企画にあたっては、登壇者の多様性にも配慮しました。

当日の議論の様子は以下のURLに掲載していますのでご覧ください。<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/reports/>

■開幕セッション

A7-061

アゴラ:あなたと創るこれからの科学と社会

概要

社会の営みの一部として科学をとらえると、そのステークホルダーはきわめて多様です。アカデミア、ビジネスセクタ、行政、市民は科学技術によってどれほど影響されるのか。科学技術は、それらのステークホルダーによってどのように発展していくのか。本セッションでは、各界からリーダーの参加を得て、科学が基盤に浸透した現代社会における多様なステークホルダーとの対話の重要性と、対話の場としてのサイエンスアゴラの目指すべき姿について討論し、来年10周年を迎えるサイエンスアゴラが見据える今後の展望について、主催者からのメッセージを届けました。

登壇者

松本洋平 (内閣府大臣政務官)、**土屋定之** (文部科学省 文部科学審議官)、**永里善彦** (日本経済団体連合会 産業技術委員会産学官連携推進部会 部会長)、**チェン・ジエン** (中国科学技術協会 国際交流部 副部長)、**ピーター・グルックマン** (ニュージーランド政府首席科学顧問)、**狩野光伸** (岡山大学 教授)、**金子直哉** (横浜国立大学 教授)、**高橋真理子** (朝日新聞社 編集委員)、**富田達夫** (産業競争力懇談会 実行委員会 委員)、**原山優子** (総合科学技術・イノベーション会議 議員)、**アン・グローバー** (欧州委員会 首席科学顧問 (ビデオメッセージ))、**マーク・ウォルポート** (英国政府 首席科学顧問 (ビデオメッセージ))、**中村道治** (科学技術振興機構 (JST) 理事長)、**大竹暁** (JST 理事)、**渡辺美代子** (JST 執行役)

結果

多様な分野、セクタ、年齢、性別、そして国籍を超えて各界の有力メンバーが集い、サイエンスアゴラが目指す、科学技術と社会の橋渡しを考える場として以下のようなメッセージが登壇者から発せられました。



●主なメッセージ

- ◆技術の進歩そのものだけでなく、社会においてどのように受け入れられるかといった「価値観を伴った科学」を考える。
- ◆科学も万能ではないことを科学者やあらゆる人達が認識しなければならない。
- ◆国家間の連携や世界の科学者同士のコミュニケーションの密度も高めていく必要がある。
- ◆科学への信頼と連携性を高めるためにも、科学分野の考えを政策立案に届ける助言がますます求められる。
- ◆市民が科学に求めるものと科学者がもっている目的のズレを認識し、目的を共有した上で科学がもつ創造性や客観性のある研究を行うことが重要。
- ◆サイエンスアゴラは、市民の対話を促進する場として意義はあるが、「科学者による科学者のための分野を超えたオープンな議論」「多様性」「アジアにおける組織的な共同研究体制」などで課題。科学者同士の連携や科学者自身の能動的な活動が今後ますます必要になってくる。
- ◆科学者のみならず、すべての人が科学と社会のあり方について考え、コミュニケーションから更に一步踏み込んだ「ともに作りだす」ための共同作業を行うためにも、オープンな活動がこれから求められてくる。
- ◆分野を横断する素地をつくるためにも、文系や理系、国内や国外といった考えを取り除かなければならない。そのためにも、特に若い世代に対して幅広い科学の知識や教育の場の提供、自然科学や社会科学に関係なく科学そのものが刺激的だと感じる経験を提供していくことが求められるだろう。

科学技術イノベーションにおける「統合化」

概要

少子高齢化やエネルギー問題など、現代の複雑な課題はひとつの学問だけでは解決できません。これらの問題の解決には、多様な学問を統合化させることが必要と言われています。本セッションでは「統合化」をキーワードに、科学的な学問をはじめ、技術開発、プロジェクトマネジメントなど、さまざまな観点から、科学技術イノベーションの実現に向けた統合化について議論しました。

登壇者

川上伸昭(文部科学省 科学技術・学術政策局長)、富山和彦(経営共創基盤 代表取締役CEO)、小寺秀俊(京都大学 教授)、天野肇(ITS Japan 専務理事)、馬場章夫(大阪大学 理事・副学長)、住川雅晴(産業競争力懇談会 実行委員会委員長)、中村道治(科学技術振興機構(JST) 理事長)、吉川弘之(JST研究開発戦略センター(CRDS) センター長)、中原徹(JST CRDS副センター長)、吉川誠一(JST CRDS 上席フェロー)



●主なメッセージ

- ◆現実の行動をもって統合すべき。行動が新たな知恵を生み、現実の統合を通じて人間の知識が統合する。
- ◆統合化は、行政や大企業が参加する前に、地域レベルで行われている。地域にはベンチャー企業などの担い手が多数存在する。
- ◆教育は大学だけでなく、企業とも連携して進めるもの。産学連携は人材育成も目的のひとつ。
- ◆基礎研究、応用研究、実用化研究を同時に行い、工学系だけでなく、人文科学や社会科学との統合化も求められ、アカデミアでの相互理解や相互コミュニケーションの不足を解消すべき。
- ◆誰も体験したことがない問題を咀嚼して挑戦できるような人材が求められる。
- ◆キャリアパスは縦方向ではなく横方向に自由に動くことを推奨すべき。



転機を迎える科学 ～科学、社会、政策をつなぐ～

概要

冷戦の終結とICT革命による急激なグローバル化の中で、私たちは、現在、気候変動、経済危機、自然災害、テロや紛争、食料安全、感染症拡大など、多くの難問に直面しています。この複雑で不確実な社会の中で、科学は大きな転機を迎えています。今日まで蓄積されてきた高度な科学の知識をさらに発展させ、有効活用していくために、科学、社会、政策のよりよいつながりが世界中で求められています。特に日本では、東日本大震災以降、それらの関係性に大きな変革が求められています。このセッションでは、欧・米、アジア、アフリカから科学技術に関わる著名なリーダーを招き、21世紀の科学の役割と責任、社会との関係について討論されました。

登壇者

アラン・レシュナー(アメリカ科学振興協会(AAAS) CEO)、ピーター・ティンデマンス(ユーロサイエンス 事務局長)、ピーター・グルックマン(ニュージーランド政府 首席科学顧問)、ロメン・ムレンズィ(開発途上国における科学振興のための世界科学アカデミー(TWAS) 事務局長)、ユディ・マブーサ(南アフリカ共和国大使館 科学技術担当公使)、有本建男(政策研究大学院大学 教授)、大竹暁(科学技術振興機構 理事)



●主なメッセージ

- ◆インターネットの誕生による情報流通革命やグローバル化の進展の中で、科学技術には、一方向から双方向へ、画一性から多様性へのシフトがますます求められる。
- ◆科学は知識生産だけでなく、ステークホルダーとのCo-DesignやCo-Productionを通じて社会の中の社会のための科学であることが求められている。
- ◆東日本大震災をきっかけに科学に対する信頼が低下しており、サイエンスアゴラは、これからの時代の科学と社会のあり方を改めて見出す場として、そのあり方を見直さなければならない。
- ◆科学に対して積極的に関わることは人材開発につながる。アフリカに好例あり。
- ◆科学者が、社会の価値観にもコミットしていくことが求められる。
- ◆科学がいかに不確定要素をもっているのかということを伝え、科学的知識により、政策決定の現場において不確定要素を見出すことが重要。



国際共同研究の現場から学ぶ～地球環境問題と日本の役割～

概要

地球温暖化による海面上昇や氷河減少、気候変動といった国境を越える地球環境問題を解決するためには、さまざまなアプローチが必要です。本セッションでは、国際共同研究に取り組んでいる研究者から、プロジェクトの成果や、そこから得られた教訓などについて伺うと同時に、国際社会の中で日本がどのような役割を果たしていくべきなのかについて、参加者が一緒に考えました。

登壇者

中静透 (東北大学 教授)、**茅根創** (東京大学 教授)、**朝岡良浩** (東北大学 特任助教)、**杉本敦子** (北海道大学 教授)、**山形俊男** (海洋研究開発機構 上席研究員)、**ロメン・ムレンズィ** (開発途上国における科学振興のための世界科学アカデミー (TWAS) 事務局長)、**ユディ・マブーサ** (南アフリカ共和国大使館 科学技術担当公使)、**益原愛子** (日本科学未来館 科学コミュニケーター)



●主なメッセージ

- ◆実は、土地の不適切な利用や生活雑排水の垂れ流しによる環境悪化など、地球環境問題にはローカルな問題もある。
- ◆国際共同研究は、国や文化の壁を越えた取り組みであり、多様なステークホルダーの参画を得て十分な対策と準備をしたうえで、さらに丁寧に説明するなどの合意形成が大切。
- ◆広域で起きていることを予測し、いかにそれぞれの地域にダウンスケールしていけるかが挑戦課題。
- ◆自然の力を利用して災害を乗り越える技術である「Eco System Based Adaptation」を日本も学んでいく必要がある。

イノベーターと語ろう!～君の夢と社会の願いをかなえる力～

概要

世界を変える研究をしている人たちは、どのような道で今に至っているのか。本セッションでは、ゲリラ豪雨の予測に挑戦する三好氏、クモの糸の人工合成に取り組んでいる菅原氏の2名から、革新的な研究をするための信念が語られました。また、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) や未来の科学者養成講座、世界的な科学コンテストの参加経験のある大学生と大学院生が、これまでの科学研究体験や研究と社会の関わり、今後の展望などについて、中高生に向け熱いメッセージを送りました。多くの中高生が参加し、登壇するトップイノベーター2名が若く、また現役の大学生、大学院生がパネルディスカッションを行うということで、より身近な研究者に接することができるものとなりました。

登壇者

三好建正 (理化学研究所計算科学研究機構 チームリーダー)、**菅原潤一** (スパイバー取締役兼執行役)、**三浦拳** (東京大学 修士2年)、**中森祐未** (大阪大学 4年)、**宇山慧佑** (早稲田大学 4年)、**伊藤千慧子** (慶應義塾大学 2年)、**松山桃世** (自然科学研究機構特任准教授)



●主なメッセージ

- ◆サイエンスが楽しいから研究をしている。最先端の研究をしても、モチベーション (動機) やパッション (情熱) が原点になる。サイエンスを楽しめることは大事。
- ◆幅広い技術を組み合わせることが重要。組み合わせることで、新しいアイデアや問題点を見つけることができる。

人とまちと地球をつなぐ新しいパラダイム～持続可能な未来社会のデザイン～

概要

少子高齢化や気候変動などますます複雑化する社会の課題に対し、持続可能で心豊かに暮らしていくことができる私たちのまちや地球を未来世代につないでいくことが必要です。このために、私たちのライフスタイルや働き方、ものづくり、まちづくりのあり方などの新しいパラダイムが求められています。本セッションでは、人が町でどのように暮らすべきか、技術の深化と経済成長、更に暮らしとまちの発展のバランスをどのように考えていくべきか、といった論点について意見が交わされました。

登壇者

前野隆司 (慶應義塾大学 教授)、**西郷真理子** (都市建築家/株式会社まちづくりカンパニー・シーネットワーク 代表取締役)、**石田秀輝** (合同会社地球村研究室 代表社員)



●主なメッセージ

- ◆人はお金やモノ、社会的地位ではなく、健康、安全、心的要因などによって持続する幸せを得ることができる。自己実現と成長、つながりと感謝、前向きと楽観、独立とマイペースという「幸せの4つの因子」が鍵となる。
- ◆土地はみんなで利用するもの、プライベートを確保しつつ、みんなと共有するセミパブリックと呼べるような場を作ることが必要。
- ◆これからの社会に必要な価値観を導き出せば、それをもとにどのような技術を発達させていくかを見出すことができる。自然を征服しようとする考えから、自然と共存しようとする考えも今後のテーマになる。

挑戦の社会化～なぜ社会はハイリスク研究を求めるのか？～

概要

ハイリスク研究とは、成功率は高くなくても、もし成功すれば世界に大きな変革をもたらす研究です。米国では半世紀以上前から実施されてきましたが、日本でもようやく実施する研究開発プログラムが登場しました。この立案に大きく関わった内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員、これからハイリスク研究に挑むプログラム・マネージャー、さらに“社会の目”とも言えるジャーナリストが登壇し、社会がハイリスク研究を求めるようになってきた背景と今後の展望について議論が交わされました。

登壇者

久間和生(総合科学技術・イノベーション会議 議員)、高橋真理子(朝日新聞社 編集委員)、山川義徳(革新的研究開発推進プログラム プログラム・マネージャー)、寺田雅美(フューチャーセッションズ 研究員)、佐藤靖(科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー)



●主なメッセージ

- ◆日本では従来の優秀な研究者が中心となっていた仕組みとは別に、必ずしも研究者でない者が「プロデューサー」として研究者をまとめる仕組みも必要。
- ◆ハイリスク研究を進めるためには、プログラムマネージャーが多くの優秀な人材を集め、適切に競争させることが必要。
- ◆一人がリーダーシップをとっていることが明確に見えるしくみは良い。失敗しても再挑戦できるようにすることが、日本にハイリスク研究が根付くために必要。

■総括セッション A7-102

総括セッション～サイエンスアゴラを振り返る～

概要

サイエンスアゴラ2014の目標として「研究者(コミュニティ)の参画による企画の充実」「科学技術に関わる多様なステークホルダーの参画」を掲げており、JST内外の評価担当者等からの講評が述べられました。その後、数名ずつ5つのテーブルに分かれ、来年度に向けて取り組むべき課題を話し合いました。

この総括セッションで提起された課題はおおむね以下のように整理されました:

- ◆サイエンスアゴラの開催趣旨をわかりやすく整理し、検討経緯も含めて出展者に周知徹底する。
サイエンスアゴラの中長期的な展望も示す。(趣旨の共有)
- ◆その年に社会的に関心の高いテーマをとりあげる。(国民目線でのテーマ設定)
- ◆企画段階から多様なアクターの参画を得て、多様な客層向けに異なるテーマを意識的に設定する。
(参加者の多様化・コミュニティを超えた協働)
- ◆学協会への働きかけを行う。分野の多様化も図る。(科学コミュニティの巻き込み強化)
- ◆民間の協力や資金も獲得し、税金で丸抱えにしない。(資金源の多様化)
- ◆企画の配置・タイムテーブル・平日と休日の使い分け・パンフの工夫等により、多様な参加者がそれぞれ有意義に過ごせる導線を作りこむ。(プログラム構成)
- ◆首都圏以外からの参加が得られるような設計を検討する。(開催地域・協力地域の多極化)
- ◆Free wifi環境の整備を含む、発信を意識したITインフラ整備(発信)



登壇者

小出重幸(日本科学技術ジャーナリスト会議会長・サイエンスアゴラ推進委員)、高安礼士(千葉市科学館 プロジェクトアドバイザー・サイエンスアゴラ推進委員)、縣秀彦(国立天文台 准教授・サイエンスアゴラ推進委員)、大竹暁(科学技術振興機構(JST) 理事)、毛利衛(JST科学コミュニケーションセンター センター長)、笹月俊郎(JST戦略研究推進部 部長)、森本茂雄(JST産学連携展開部 部長)、白木澤佳子(JST産学基礎基盤推進部 部長)、水野充(JST知識基盤情報部 部長)、大槻肇(JST理数学習推進部 部長)、小長谷幸(JST科学コミュニケーションセンター 事務局次長)

ほか 計38名が参加



●主催者からの総括メッセージ

サイエンスアゴラ2014においては、主催者であるJSTの各部署や研究コミュニティの一部がサイエンスアゴラに主体的に参加したことで、来年10周年を迎えるサイエンスアゴラに新たな発展の芽が生まれたと考えます。今回提起された課題を十分ふまえて、次年度以降のサイエンスアゴラを設計していきたいと思えます。

セッション報告

サイエンスアゴラ2014では、「あなたと創るこれからの科学と社会」をテーマに出展企画を募集し、計188の企画で実施しました。企画は、ブース展示（ブースで終日実施される展示・実演・体験型展示など）およびセッション枠企画（シンポジウム・トークセッション・ショー・ワークショップなど）の2種類があります。

サイエンスアゴラ賞ほか授賞企画



サイエンスアゴラ賞



産総研賞



フジテレビ賞



リスーピア賞



参加者特別賞

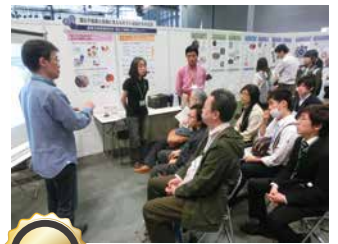
サイエンスアゴラでは、企画内容の向上や科学コミュニケーション理念の促進を図ることを目的とした「サイエンスアゴラ賞」を設けています。当日の様子をみながら、公募書類の査読結果をふまえサイエンスアゴラ推進委員会にて選考し、選出しました。

サイエンスアゴラ賞とは別に、共催・協力機関等により、「産総研賞」、「フジテレビ賞」、「リスーピア賞」が贈られました。それぞれの機関が選考を行い、各1件の授賞企画を決定しました。また、来場者、出展者の投票による「参加者特別賞」を決定しました。

A1-011 遺伝子組換え技術に支えられている私たちの生活（農業生物資源研究所 遺伝子組換え研究センター）

企画紹介

今回の出展では、遺伝子組換え技術がすでに私たちの生活を支えていること、私たちが進めている遺伝子組換え研究が、大きな可能性を秘めていることを伝えたいと思い企画しました。そこで、生活に関連性ある研究をポスターで紹介し、さらに研究者による10分間プレゼンテーションを3日間で18回行いました。多くの来場者の方からは「研究者と直接話ができて良かった。応援します。」との声が、説明した研究者からは「来場者と直接話ができて勉強になった」という感想があり、両者ともに満足度の高い3日間となりました。



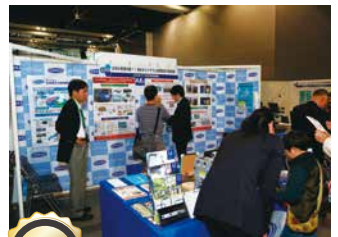
授賞理由

見やすく整理されたポスターや賛成・反対シールの活用など参加者への配慮が随所に感じられました。また、食糧問題など身近な問題と科学を結びつけ、テーマである「あなたと創るこれからの科学と社会」に合致した出展でした。

A1-020 日本が資源大国!! 海水からリチウム資源回収の最前線!（日本原子力研究開発機構）

企画紹介

海水には多くの資源が含まれ、実は、日本は資源大国です。生活必需品となったスマートフォン、普及拡大が進む電気自動車の電池や、次世代発電炉の核融合炉に必要なリチウムを、海水から回収する新たな手法を紹介しました。しかも、回収と同時に発電する、一石二鳥の技術です。その電気を利用し、オルゴールを鳴らす等、実際に見て分かる展示物を用意したことで、専門家だけでなく、ご家族にも最新技術が楽しめる機会となりました。「素晴らしい研究だ!!」等の感想をいただき、今後の実用化研究への活力を得ました。



授賞理由

電気を発生させながらリチウムを分離する技術は、輸入に頼っている日本のリチウム資源環境に新たな地平を開く優れた研究成果です。世界と日本の資源状況、リチウム循環型社会への展望など、来場者に体感させる優れたプレゼンテーションでした。

A1-053 世界の子どもたちに科学の羽根を ～アフリカ・マラウイ～（PICO factory Japan）

企画紹介

アフリカ・マラウイ共和国で理科教育に携わってきた私たちは、現地で指導した高校生が作った発電用風車の展示と、実際に子ども達と楽しんだ実験をメインに来場者と交流しました。実物の風車の材料や細部に見入る方や、アフリカでも手に入る材料を使った実験に夢中になる子ども達の姿が見られ、風車や実験にまつわるエピソードと共に、科学を通してアフリカを感じて頂くことができましたように思います。国や年齢に関わらず楽しんでもらえる「科学」や「伝え方」を考える良い機会となりました。



授賞理由

JICAの海外青年協力隊に参加した教師・学生たちの団体であり、アフリカにおいて科学を伝える活動を続けているとのこと。資材も乏しい中で工夫して教材を作っていることなどの紹介があり、科学コミュニケーション活動としてユニークでした。

A1-048 ぐんま☆じゅとく☆kawaiiスライムをつくろうetc.☆(樹徳高等学校 理科部)

企画紹介

サイエンスアゴラ賞×フジテレビ賞、ありがとうございます。ただただ驚いております。大変光栄です。3回目の出展になります。今回は、おもしろ科学実験「kawaiiスライムをつくろう」の他に、繭から生糸をつくる「上州座繰り体験」などにも挑戦しました。群馬で専門家に指導していただいたり、繭を提供していただいたり、たくさんの方に協力していただきました。サイエンスアゴラを通して、さまざまな人とつながることができました。これからも人との出会いを大切に活動していきます。



授賞理由

高校生による日頃の活動が感じられる元気あふれる運営で、群馬県の問題である世界遺産等を内容に採り入れた意欲的で工夫あふれる展示と科学体験でした。運営者の接客態度が謙虚で対話が丁寧なことも好感が持てました。(サイエンスアゴラ賞)

身近な体験型の科学実験や郷土群馬に根ざした生糸づくりなど数多くのコンテンツで会場を訪れた子供たちを楽しませるエンターテインメント性の高さにフジテレビ賞を贈らせていただきます。

今後の更なる発展と活躍に期待しております。(フジテレビ賞)

A3-071 さわれる・不思議ミニミュージアム ミニエクスプロ(ミニ・エクスプロラトリウムを創る会)

企画紹介

1989年ソニー井深さんがサンフランシスコの展示物65種類を導入しソニー・エクスプロラトリウム展を開催。そのエンジニアと信州大生9名が60種類の好奇心いっぱいの実験を製作展示してミニ・エクスプロが始まりました。子供達は面白い科学体験で好奇心いっぱいの輝く目で遊び、アゴラでは6月に未来館に開設した「おやっこひろば」でミニエクスプロを2日間開催したことで、親子で遊べる体験ミュージアムの必要性を感じました。各地科学館や幼児施設でもおやっこ科学広場の導入が期待されます。



授賞理由

常設展示「おやっこひろば」のコンセプトにマッチした手作りの体験型科学展示でした。チルドレンズミュージアムを作りたいという出展者の熱意と、幼児期の科学リテラシーの形成が重要であるという考えが伝わる出展でした。

A7-094 勝手に「第5期科学技術基本計画」みんなで作っちゃいました!(サイエンストークス(Science Talks)委員会)

企画紹介

サイエンストークスでは「ここがヘンだよニッポンの研究!~日本で活躍する外国人研究者、社会で活躍する型破りな博士・研究者大集合」と題し、総勢13名の多様なキャリアを持つ研究者による2本立てトークセッションを開催しました。「日本は研究しにきたい国か?」「博士・研究者の活躍の場が研究室だけなんて誰が言った?」というテーマをめぐる忌憚なき議論から、前人未到のキャリアにすむ個人の挑戦力と、それを支える日本の科学技術政策がどうあるべきかを考えるすばらしいきっかけとなったと思っております。



授賞理由

これまでアゴラではみることが少ない、実社会で活躍する民間及び公的機関で働く方々による政策提言の取り組みで、若い人々のキャリア形成に対して有益な内容が導入であり、運営もスムーズでテンポが良かったと思います。

C11-108 今、科学コミュニケーターが直面する5つの壁の壊し方(SCねっと、科博SCA)

企画紹介

科学コミュニケーターが感じている「壁」を打開するためにどうしたらよいか、全国のSCが集まりグループディスカッションを行いました。SCといっても現場や対象が幅広く、抱える悩みも様々でしたが、実際に顔を合わせて話しあう事で新たな視点や刺激を受けた参加者も多かったようです。解決策を見出すまでの深い議論には時間が足りませんでしたが、ここで終わらせずぜひ次に繋がりたいと思います。

また今回は未来館と科博、双方のSC育成プログラム出身者による初の共同出展でしたが、大変良い連携の機会となりました。



授賞理由

科学コミュニケーターが現場での課題を具体的にワークショップ形式で討論するもので、それを観ている来場者にとっても大変中身の濃いものでした。意見の多様性を認めつつ対話を建設的に展開していました。



サイエンスアゴラ賞



産総研賞



フジテレビ賞



リスピーア賞



参加者特別賞

DM2-137 世界に一つの岩石標本 ～ジオパークを楽しもう!～(島原半島ジオパーク協議会、がまだすドーム)**企画紹介**

ジオパークは地域の地球活動とそこに暮らす人々との関わりを楽しく学ぶ場所です。今回は4つのジオパークが連携し、岩石標本を作りながら地球と人との関わりを紹介しました。小学生を中心に2日間で延べ205名が参加し、うち3名が4地域すべての標本を作りました。アゴラ終了後、参加者から「トーク力がすごくあって楽しかったし、とても興味がわきました」との感想が寄せられたほか、地元でも早速岩石標本作りが行われるなど、アゴラの参加をきっかけに「岩石標本作りを通じた地域の魅力の再発見」が広がっています。

**授賞理由**

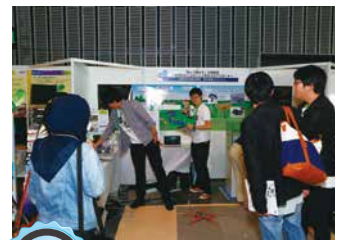
今回は複数のジオパークが共同して展示していたので、来場者にとっては地域間の比較ならびに全体像も学ぶことができました。今後このような複数のプロジェクトが協同して展示が行われていくことを、アゴラ(広場)の方向性として重視したいと思います。(サイエンスアゴラ賞)

産総研の特徴的な研究分野の1つに「地質分野」があり、「地球をよく知り、地球と共生する」をキャッチフレーズに日々研究を進めているところです。

授賞企画は、楽しみながら地球を知る一歩として、岩石標本を作るもので、参加していた子供たちの目が輝いており、同伴の父兄と楽しみながら、作業をしていたのが印象的であったとともに、持ち帰り、友達と、親子で、地球との共生について語りあうことが期待できる、まさに、「地球をよく知り、地球と共生する」にふさわしい内容でありました。また、参加ジオパークが増え、広がりも評価しました。(産総研賞)

A1-006 「創って動かす」生物研究 ～数理科学とロボット工学からのアプローチ～(文部科学省委託事業「数学協働プログラム」)**企画紹介**

ロボットというと人型や工業用を思い浮かべる方が多いようですが、ここでは、動物の運動のしくみを数理的に理解するためのロボットを紹介しました。東北大学石黒章夫研究室からヘビ型、四足歩行型、クモヒトデ型、統計数理研究所からヒラムシ型ロボットを出展し、実際に動く様子を見てもらいました。来場者からは「簡単な数式で複雑な動きをするのは面白い!」という声もあり、数学の魅力・有用性を感じて頂けたと思います。数理科学が多面で有用であることを広めたいという当事業の趣旨から当展示を企画しました。

**授賞理由**

単純な数式のみで四足歩行動物のアルゴリズムを完成させる発想の良さと、実際に動くロボットを持ち込み来場者の興味をひいていた点を評価しました。

A1-003 ここまで来た!iPS細胞の世界(京都大学 iPS細胞研究所(CiRA))**企画紹介**

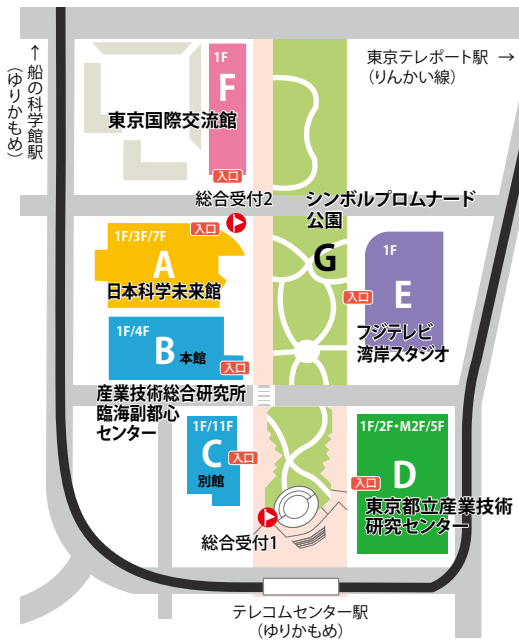
再生医療を初め様々な医療分野で利用されることが期待されているiPS細胞について、長所も短所も含めて、正確な情報をより多くの人に知っていただくことを目的に出展しました。京都大学物質—細胞統合システム拠点(iCeMS)と共同で開発した幹細胞すごろくで、幹細胞研究者の研究生活を垣間見ていただき、約30分のミニサイエンス・カフェではiPS細胞研究の現状について話し合いました。ありのままのiPS細胞研究についてお伝えすることで、少しでもiPS細胞研究を身近なものに感じていただければ幸いです。

**授賞理由**

極めてホットな話題であり関心の高いものでした。説明者が丁寧に来観者に対応していたことが、多くの来観者の共感を得たものと考えられます。

実施プログラム一覧

会場MAPと企画配置



A会場：日本科学未来館 (103企画)

主に高校生～大人向け企画

【セッション枠】

7日(金)

- ・開幕セッション、キーノートセッション(国際)
- ・JST戦略事業新技術説明会、ELSIIに関するWS競争的資金の運用など

8日(土)

- ・COI事業、JST戦略事業(太陽光キャパバン)
- ・キーノートセッション(地球規模、若手研究者)
- ・地球規模課題やライフサイエンス系、科学の諸課題を議論・発信する企画など

9日(日)

- ・キーノートセッション(社会の中の科学技術など)、総括セッション
- ・科学教育に関するもの
- ・政策と科学技術に関するセッションなど

【ブース出展】

- ・最先端の研究開発を発信し考える企画(大学、研究機関、JST、MEXTプロジェクトなど)
- ・大学等の教育・研究開発環境についての出展
- ・地域に根ざした活動とグローバルな出展

～北海道～九州、南アフリカまで～

B・C会場：産業技術総合研究所 (13企画)

産業技術総合研究所の一般公開/科学コミュニケーション
専門家向け企画や研究倫理に関するWSなど

D会場：都立産業技術研究センター (35企画)

都産技研の一般公開 子ども・親子連れ向け企画
【同時開催】セーフティグッズフェアwithサイエンスアゴラ

F会場：東京国際交流館 (28企画)

主に大型シンポジウムおよび高校生による企画

【大型企画】

7日(金)

キーノートセッションJST-CRDSシンポジウム
「科学技術の統合化」

8日(土)

文部科学省シンポジウム「夢ビジョン2020」

9日(日)

高校生による企画など
・JST理数事業高校生ポスター発表、科学の甲子園体験ブース等

【セッション枠】

- ・文部科学省数学事業
- ・JST戦略事業(数学)
- ・学術会議(科学技術でわかること、わからないこと)
- ・SSH高校生ディベートなど

【ブース出展】

- ・文部科学省夢ビジョン
- ・一般・子供向け企画など

E会場：フジテレビ (4企画)

医療&体験ブース
ロボットスーツ、医療に関する企画など

G会場：シンボルプロムナード公園 (5企画)

大型展示企画など
トレラーハウス、地層処分など

会場別プログラム

●日本科学未来館 (A会場)

- | | |
|--|--|
| <p>A1-001 JSTの震災復興に向けた取組み
科学技術振興機構 JST復興促進センター</p> <p>A1-002 実感! みんなの仮想研究所
科学技術振興機構 CREST、さきがけ、ERATO</p> <p>A1-003 ここまで来た! iPS細胞の世界
京都大学 iPS細胞研究所(CiRA)</p> <p>A1-004 科学技術情報から見える世界、生まれる科学技術のたまご
科学技術振興機構 情報企画部、バイオサイエンスデータベースセンター、知識基盤情報部</p> <p>A1-005 地球環境問題へのアプローチ～国際共同研究の現場から学ぶ～
科学技術振興機構 国際科学技術部</p> <p>A1-006 「創って動かす」生物研究～数理科学とロボット工学からのアプローチ～
文部科学省委託事業「数学協働プログラム」</p> <p>A1-007 理研の生命科学研究の最前線をのぞいてみよう!
理化学研究所(HPCI、CLST、QBIC)</p> <p>A1-008 再生医療の工場見学～どんな技術でつくられているの?～
科学技術振興機構 再生医療研究推進部</p> <p>A1-009 「放射線でのちを科学」ってどんなこと?
放射線医学総合研究所</p> <p>A1-010 脳科学が創る未来～人とマシンをつなぐ新しい技術～
文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」</p> <p>A1-011 遺伝子組換え技術に支えられている私たちの生活
農業生物資源研究所 遺伝子組換え研究センター</p> <p>A1-012 バイオテンプレート技術で「藻(も)のづくり」
東京工業大学 ERATO 彌田超集積材料プロジェクト</p> <p>A1-013 研究倫理に触る? 作る? 体験する!
CITI Japan プロジェクト</p> <p>A1-014 いつでも・どこでも・だれでも天体観測
慶應義塾大学ITP、山形県立鶴岡南高等学校</p> <p>A1-015 海底土放射能分布測定ロボットの開発
科学技術振興機構 先端計測分析技術・機器開発プログラム</p> <p>A1-016 文部科学省START事業 電波による非接触生体計測システム・ユニットの開発
九州工業大学 産学連携推進センター 佐藤寧研究室</p> <p>A1-017 SIPで拓く日本の未来
内閣府SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)</p> <p>A1-018 一緒に考えよう! 「光合成で創る未来」
日本光合成学会 若手の会</p> <p>A1-019 4D2U/MITAKAを体験して自らの地球感を創ろう!
金沢工業大学 サイエンスコミュニケーションプロジェクト!</p> <p>A1-020 日本が資源大国!! 海水からリチウム資源回収の最前線!
日本原子力研究開発機構</p> <p>A1-021 海から地球環境変動をとらえる
海洋研究開発機構</p> | <p>A1-022 わたしたちの生活と海の研究
日本海洋学会 教育問題研究会</p> <p>A1-023 地震予知の実現に向けた電磁波パルスの観測研究
京都産業大学</p> <p>A1-024 どこから音が聴こえるの? 不思議な音の方向感
ソラオト</p> <p>A1-025 広めようサイエンス! 指導者養成講座の紹介
愛知工業大学 工学教育ロボット研究室</p> <p>A1-026 理系の仕事
女性技術士の会</p> <p>A1-027 輝け! 世界で活躍する女性研究者達
科学技術振興機構 ダイバーシティ推進室、戦略研究推進部</p> <p>A1-028 研究成果の実用化に向けて～知的財産とライセンスの仕組み～
科学技術振興機構 知的財産戦略センター</p> <p>A1-029 生活・産業と外来生物～自然共生社会を考える～
生物多様性保全協会</p> <p>A1-030 女性が輝く科学技術の未来
東北大学 サイエンス・エンジェル</p> <p>A1-031 健康を支える天然物質～生物に学ぶものづくり戦略～
文部科学省新学術領域研究「生合成マシナリー」総括班</p> <p>A1-032 モレキュリアス!(MoleQrious!)～「ぶんし」を感じよう～
名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所、学術研究・産学官連携推進本部</p> <p>A1-033 黒ラブ教授理系笑いライブ(▽)/ブ～体験版
よしもとクリエイティブエージェンシー</p> <p>A1-034 世界結晶年2014～折り紙や封筒で結晶模型を創ろう～
世界結晶年日本委員会実行委員会</p> <p>A1-035 カタチと計算の気になる関係
日本コンピュータ化学会</p> <p>A1-036 地上の太陽・核融合エネルギー
日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所、六ヶ所核融合研究所</p> <p>A1-037 ケムステ出張版! 「広がる化学の世界」
化学ポータルサイト Chem-Station(ケムステ)</p> <p>A1-038 「アニメで科学を伝える」超小型ミュージアムの挑戦
マイクロミュージアムラボトリー</p> <p>A1-039 コミックマーケットの科学系サークル紹介
コミックマーケットの科学系サークル連合</p> <p>A1-040 考古学から最新電波天文学まで ZA Living Laboratory
南アフリカ共和国大使館</p> <p>A1-041 見える科学・見えない科学
埼玉県立浦和東高等学校SPP</p> |
|--|--|

- A1-043 火の色彩～視覚で楽しむ炎色反応～
大阪工業大学 サイエンスアラカルトエコープロジェクト
- A1-044 はこだて国際科学祭6回目の取組み
サイエンス・サポート函館
- A1-045 コロンブスの卵プロジェクト～まちなかで科学体験!～
八戸工業高等専門学校 科学部
- A1-046 あつまれ! 福島科学データコレクション
みけねこサイエンスプロジェクト
- A1-047 雪の重さってどのくらい? 実際にはかかって感じてみよう
日本雪氷学会
- A1-048 ぐんま☆じゅとく☆kawaiiスライムをつくろうetc.☆
樹徳高等学校 理科部
- A1-049 震災後のふくしまのサイエンスコミュニケーション
ふくしまサイエンスぶらっとフォーム (spff)
- A1-050 放射線が「わかる」本を作る工夫
菊池誠、小峰公子、おかざき真里
- A1-051 広がりゆく科学のひろばの担い手たち
第6回東京国際科学フェスティバル実行委員会
- A1-052 名古屋大学主催 サイエンスフェスティバル実施報告
名古屋大学 学術研究・産学連携推進本部
- A1-053 世界の子どもたちに科学の羽根を～アフリカ・マラウイ～
PICO factory Japan
- A1-054 PETボトルでリサイクル繊維を取り出そう!
エコが見える学校×GPN×こどもエコクラブ
- A1-055 中・高 科学部連携による科学の発信
都立富士高等学校・都立富士高等学校附属中学校 科学探究部
- A1-056 五感を使って表現しよう! あなたの星、みんなの宇宙
山梨県立科学館 星の語り部
- A1-057 注目! JSTが導く環境技術革命への道～この技術が買いたい!～
科学技術振興機構 戦略研究推進部、環境エネルギー研究開発推進部
- A1-058 文部科学省 ナノテクノロジープラットフォーム 使える最先端、あります!
文部科学省「ナノテクノロジープラットフォーム事業」
- A1-059 昆虫食を科学する～2030年くらしのなかの昆虫食～
食用昆虫科学研究会
- A1-060 Life is Small～スマホ顕微鏡がひらくミクロの世界～
科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
- A7-061 開幕セッションアゴラ:あなたと創るこれからの科学と社会
科学技術振興機構
- A1-062 注目! JSTが導く環境技術革命への道～この技術が買いたい!～
科学技術振興機構 戦略研究推進部、環境エネルギー研究開発推進部
- A7-063 アゴラキーノートセッション 転機を迎える科学～科学、社会、政策をつなぐ～
科学技術振興機構
- A7-064 激論! 先端ICTの光と影
科学技術振興機構 戦略研究推進部、研究開発戦略センター、社会技術研究開発センター
- A7-065 文部科学省START事業 電波による非接触生体計測システム、ユニットの開発
九州工業大学 産学連携推進センター 佐藤寧研究室
- A7-066 競争的研究資金におけるイノベーションはどうしたらおこせるか
科学技術振興機構 JST-PO研修院
- A1-067 COI STREAM 今の夢、10年後の常識、新しい未来を語ろう!
科学技術振興機構 COIプログラム
- A1-068 ニコニコ学会β「研究100連発」 in Science Agora
科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
- A1-069 求む! 未来の科学者 JST太陽電池キャラバン～太陽電池で語る未来～ in お台場
科学技術振興機構 さきがけ「太陽光と光電変換機能」研究領域
- A3-070 未来館の研究棟を探検しよう!
日本科学未来館
- A3-071 さわれる・不思議ミニミュージアム ミニエクスプロ
ミニ・エクスプロアトリウムを創る会
- A7-072 アゴラキーノートセッション 国際共同研究の現場から学ぶ～地球環境問題と日本の役割～
科学技術振興機構 国際科学技術部
- A7-073 アゴラキーノートセッション イノベーターと語ろう! 君の夢と社会の願いをかなえる力
科学技術振興機構 理数学習推進部
- A7-074 バイオで遊んで学ぼう～バイオ教材とゲームの融合～
神奈川工科大学 応用バイオ科学部 応用バイオ科学科
- A7-075 外来生物は、全て駆除すべきである。是か非か?
生物多様性保全協会
- A7-076 昆虫食を科学する～あなたと創るこれからの昆虫食～
食用昆虫科学研究会
- A7-077 ODAIBA Lifestyle 2020～2020年お台場のくらし～
国際研究交流大学村
- A7-078 Future Earthワークショップ～対話で考える日本の戦略～
科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
- A7-079 災害と恵みと私～地球に生きる素養って、なんだ?～
トイロカガク・結
- A7-080 お昼からサイエンスコミュニケーションDEナイト特号
日本サイエンスコミュニケーション協会 若手の会
- A7-081 対話の場「さんかく△テーブル」を体験しよう
科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
- A7-082 工学を通して科学技術の世界にふれてみよう!!
東京大学 生産技術研究所 次世代育成オフィス(ONG)
- A7-083 “工学”って何? 電気情報工学が拓く未来の社会
東北大学 電気・情報系 教育広報企画室
- A7-084 宇宙のホンモノ体験をしよう
日本宇宙少年団さくら分団
- A7-085 サイエンスカフェによるSTSステートメントの試み
九州大学 科学技術イノベーション政策教育研究センター
- A7-086 「低炭素のまち」自然エネルギーに触れて、考えて、つくってみよう!!
国土総合研究機構 低炭素社会マネジメント技術研究会
- A7-087 実務経験の達人 企業OB/OGと話してみよう!! ～学校と社会と仕事のかかわり～
経営支援NPOクラブ
- A7-088 ワクワドキドキ ワンダースクール～学校を科学館に～
岩崎正彦
- A7-089 読もう、遊ぼう、科学の本!
科学の本の読み聞かせの会「ほんととほんと」
- A7-090 科学の心 日本の心(竹の科学)
裏千家インターナショナルアソシエーション
- A1-091 アゴラキーノートセッション 人とまちと地球をつなぐ新しいパラダイム～持続可能な未来社会のデザイン～
科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
- A1-092 アゴラキーノートセッション 挑戦の社会化～なぜ社会はハイリスク研究を求めるのか?～
科学技術振興機構 革新的研究開発推進室
- A1-093 研究成果の実用化に向けて～炭素と鉄で水を浄化し、魚介類を増殖させる技術～
科学技術振興機構 知的財産戦略センター
- A7-094 勝手に「第5期科学技術基本計画」みんなで作っちゃいました!
サイエンストークス(Science Talks)委員会
- A7-095 サイエンス温泉～サイエンスとアート実は結構似たもの同士?!～
東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構
- A7-096 Life is Small～スマホ活用アイデアワークショップ～
科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
- A7-097 科学技術と地方自治
コミュニティ研究会
- A7-098 高校で学ぶべき科学とは?～次期学習指導要領に望むもの～
日本学術会議 科学力増進分科会
- A7-099 あつまれ! 福島科学データコレクション
みけねこサイエンスプロジェクト
- A7-100 身近になった遺伝子検査～みんなで付き合い方を考える～
くらしとバイオプラザ21
- A7-101 対話する挑戦!～政策実務家・研究者×ワークショップ専門家～
科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
- A7-102 総括セッション～サイエンスアゴラを振り返る～
科学技術振興機構
- A7-103 物理ゲーム館「ニュートンの広場」
東京電機大学 理工学部 物理学コース
- A7-104 Magnetic field～あなたとわたしの電磁力～
東海大学 Supporting Science Experiment
- 産業技術総合研究所臨海副都心センター本館(B会場)
- B1-105 産総研一般公開「きて! 未来の技術がいっぱい」
産業技術総合研究所 臨海副都心センター
- 産業技術総合研究所臨海副都心センター別館(C会場)
- C1-106 産総研一般公開 特別企画「健康寿命世界一の産総研村へようこそ」
産業技術総合研究所 臨海副都心センター
- C11-107 サイエンス・アートの世界
Tane+1 LLC
- C11-108 今、科学コミュニケーターが直面する5つの壁の壊し方
SCねっと、科博SCA
- C11-109 科学館による地域科学コミュニケーションの発展
科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター
- C11-110 化学を社会に伝える技術と工夫
佐藤健太郎、日本コンピュータ化学会
- C11-111 トークライブ:映画で語るサイエンス
粥川準二、斉藤勝司
- C11-112 「こども科学オリンピック」親子の絆で科学技術を育てる
ニコニコ科学研究所
- C11-113 国連科学委員会福島報告書をいかに活用するか
原子放射線の影響に関する国連科学委員会 (UNSCEAR)
- C11-114 3.11と科学コミュニケーター 私たちは何ができて何ができなかったのか
東京大学大学院 理学系研究科
- C11-115 科学コミュニケーションの実践と規範、両者の架け橋
科学コミュニケーション研究会
- C11-116 広がりゆく科学のひろばの担い手たち
第6回東京国際科学フェスティバル実行委員会
- C11-117 本音で語る研究倫理問題リターンズ
横山雅俊、榎木英介、phdjp 科学と社会ワーキンググループ

●東京都立産業技術研究センター (D会場)

- D1-118 都産技研体験見学ツアー
東京都立産業技術研究センター
- D1-119 しずおか自然体験ミュージアムinアゴラ
静岡科学館る・く・る SC講座修了生
- D1-120 飛ぶ種の模型を作ろう～種が旅するかたちを考えよう～
あうるの森
- D1-121 小さな子どもが自然・科学と出会うひとく“Kidsサンデー”
兵庫県立人と自然の博物館
- D1-122 宇宙エレベーターの昇降機モデル製作と実験教室
日本大学 理工学部 精密機械工学科 ロボット工房
- D1-123 かがく緑日パートVII
科学読物研究会
- D1-124 ちば生きもの科学クラブ2014 ～クラブ生の活動成果報告～
千葉市科学館「ちば生きもの科学クラブ」
- D1-125 実は仲良し!? 電気と磁石! ～遠隔送電のヒミツ～
東京大学 サイエンスコミュニケーションサークルCAST
- D1-126 磁石のたまご ～磁石から生まれる未来の地球～
千葉工業大学 安川研究室
- D1-127 気象予報士とお天気実験!
日本気象予報士会サニーエンジェルズ
- D1-128 親子で本気の理科実験
理科教育研究フォーラム
- D1-129 「こども×地域＝健康」: タバコフリーキッズになろう
国立がん研究センター たばこ政策研究部 がん予防研究分野
- D1-130 4次元デジタル地球儀ダジック・アースで地球を回そう
京都大学大学院 理学研究科 地球科学総合部ダジック・チーム
- D1-131 弾むスライム作り! & TMU-SFC活動報告
首都大学東京 TMU-SFC
- D1-132 しましま体験 ～地学を通じて災害を知ろう!～
国土防災技術
- D1-133 富山きときとサイエンス
サイエンスカフェとやま、富山大学 工学部 科学マジックプロジェクト
- DM2-134 ネオピア電子ブロックを使った電子回路の体験
丸越
- DM2-135 あなたもチャレンジ! おもしろ科学ランキング!
麻布科学実験教室
- DM2-136 図形と空間の不思議 ～敷き詰め模様で遊ぼう!～
日本テセレーションデザイン協会
- DM2-137 世界に一つの岩石標本 ～ジオパークを楽しもう!～
島原半島ジオパーク協議会、がまだすドーム
- DM2-138 3Dプリンタによる、スピログラフ大実験
マーブルワークショップ
- DM2-139 われたらばずる
エコが見える学校×GPN×こどもエコクラブ
- DM2-140 ものの一生のすごろく
エコが見える学校×GPN×こどもエコクラブ
- DM2-141 札幌発、科学をわかりやすく伝えることを考える勉強会
科学勉強会 Natural Science Interpreters
- DM2-142 結晶のふしぎ
結晶美術館
- DM2-143 やってみよう! 楽しいプログラミングワークショップ
デジタルポケット
- D5-144 ロボット開発セクター紹介、都産技研の3Dデジタルものづくり
東京都立産業技術研究センター
- D5-145 カラフルなオリジナルコースターをつくろう
東京都立産業技術研究センター
- D5-146 手描きホログラムキーホルダーをつくろう
東京都立産業技術研究センター
- D2-147 身近なもので化学実験! 君も化学者になろう!
日本化学会 普及交流委員会
- D2-148 わくわく実験教室 植物からDNAを取り出そう!
日本化学会 実験体験小委員会・桐蔭横浜大学 齋藤潔
- D2-149 夢いっぱい科学あそび
麻布科学実験教室
- D2-150 見て! 聞いて! かがく絵本の読み隊がやってきた!パートV「もこもこヒツジでさいえんす」
科学読物研究会
- D2-151 「自然とことばのカードゲーム」を楽しもう
福井大学大学院 教育学研究科
- D5-152 何で理系にいかないの? ～女子的進路選択のホンネ～
科学技術振興機構 理数学習推進部、ダイバーシティ推進室

●フジテレビ湾岸スタジオ (E会場)

- E1-153 胸いっぱい! いき息・肺ランド
川崎医科大学 現代医学教育博物館
- E1-154 「未来スタジオ」夢をかなえるテクノロジー
CYBERDYNE、ソニーコンピュータサイエンス研究所、大和ハウス工業、電通サイエンスジャム
- E1-155 健康を科学する。血管年齢を測ってみよう!
東京有明医療大学 保健医療学部 柔道整復学科
- E1-156 鍼灸で健康に! ～科学的に明らかになったその効果～
東京有明医療大学 保健医療学部 鍼灸学科

●東京国際交流館 (F会場)

- F1-157 自然エネルギーで充電して走る小型電気自動車
電気理科クラブ
- F1-158 ペットボトル・トラス競技
早稲田摂陵中学校・高等学校 生物研究部
- F1-159 理科読をはじめよう
理科読をはじめよう実行委員会
- F1-160 気がつけばそこにあるもの ～ガラス分子アクセサリー～
ガラス細工懇和会(北里大学 一般教育部)
- F3-161 夢ビジョン2020展示会 ～徹底的に「みんなの夢」を語ろう～
文部科学省 夢ビジョン2020実現プロジェクトチーム ほか
- F3-162 面白い研究あり! ～中高生の研究発表会～
科学技術振興機構 理数学習推進部
- F3-163 科学の甲子園・甲子園ジュニア ～きみも挑戦してみよう～
科学技術振興機構 理数学習推進部
- F3-164 化学カードゲームいえらばミニトーナメント & 露パルプ展示
デザイン四つ葉
- F3-165 正多面体って意外と面白い…作ってみよう
正多面体クラブ
- F3-166 弾が戻ってくる輪ゴム銃の製作・体験
埼玉県立久喜工業高等学校 環境科学科
- F3-167 宇宙100の謎
名古屋大学 宇宙100の謎プロジェクトチーム
- F4-168 茨城県北ジオパークを通じた地域振興
茨城大学 地質情報活用プロジェクト
- F4-169 えれめんトランプで大富豪!?
元素周期表同好会
- F4-170 科学に恋するネットラジオ・ヴォイニッチの科学書
インターネットラジオ局 くりらじ
- F3-171 アゴラキーノートセッション 科学技術イノベーションにおける「統合化」
科学技術振興機構 研究開発戦略センター
- F3-173 2020年とこの先に向けた科学技術への期待 ～徹底的に夢を語ろう～
文部科学省 夢ビジョン2020実現プロジェクトチーム ほか
- F3-174 できる? できない? サイエンスアゴラで私の未来をプレストする!
文部科学省 夢ビジョン2020実現プロジェクトチーム、3_2_1_0
- F3-175 科学における発見、数学における発見
文部科学省委託事業「数学協働プログラム」
- F3-176 求む! 未来の科学者 JST数学キャラバン ～拡がりゆく数学～
科学技術振興機構「数学と諸分野の協働によるブレークスルーの探索」研究領域
- F4-177 元素検定2014 ～君の元素力を試してみよう!～
元素周期表同好会
- F4-179 科学・技術でわかること、わからないことPartIV
日本学術会議 科学力増進分科会
- F4-180 SSH高校生ディベート「遺伝子組換え食品は安全か」
岐阜県立岐阜農林高等学校
- F4-181 中高生脳クイズ大会 脳クイズ王に挑戦!
脳科学関連学会連合
- F4-182 小水力発電が世界を救う!
八女学院中学高等学校 物理部
- F4-183 化学反応で生物と同じようなリズム反応を作ってみよう
桜美林大学 リハラルアーツ学群
- F4-184 蛍気楼(しんきろう)をケースの中へ手作りする
夏目雄平(千葉大学 普遍教育センター)
- F1-185 ドーム映像で「いのちのはじまり」を訪ねてみよう
アイカム
- F1-186 自然エネルギーで充電して走る小型電気自動車
電気理科クラブ

●シンボルプロムナード公園 (G会場)

- G1-187 地上の太陽・核融合エネルギー
日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所、六ヶ所核融合研究所
- G1-188 未来の移動基地・トレーラーハウスがつくる防災都市
首都大学東京 リサーチ・アドミニストレーション室
- G1-189 高レベル放射性廃棄物の処分問題について一緒に考えてみませんか?
原子力発電環境整備機構 (NUMO)
- G1-190 日本大学 N.国際救助隊
日本大学 N.RESCUE
- G1-191 農家を科学する ～田ゲタでまるごと農業体験～
青空理科実験教室 農かがく

■サイエンスアゴラ2014出展者にうかがいました!

①"つながった"相手やいきさつについて

- 1 出展内容に関わる分野の研究者から興味を持って頂き、後日、追加の質問などがありました。頂いたご意見は、今後研究を進める上での参考となり、当該研究者から有益な情報を得られる可能性もあります。
- 2 産連・知財関係の出展では無いような、学校の先生や学生・生徒さんをはじめ、一般の方の来場が多く、新鮮さがありました。
- 3 今回、女性の活躍、理系女子の未来、「未来のあったらいいな」、について展示、工作を行いました。女性の活躍についての資料などは、アゴラのような大きなイベントであったからこそ、女性の資料でありながらも男性も気軽に見たり、質問できたようです。また、「未来のあったらいいな」は子どもたちが、「食べても太らないチョコレート」、「ぐりどん、ぐりどん、と言ったら何でも出てくるどんぐり」など遊びを交えながら柔軟な発想をリンゴ型の付箋紙に描いて木が描かれたボードに貼ってくれました。
- 4 各展示内容と方法のそれぞれに関心を持っていただくことができ、多彩な研究者や学生・院生と貴重な議論や情報交換がなされました。また科学コミュニケーションに関心を持っている方も多く、初めてお会いする方や例年のように立ち寄ってくださる方々との話し合いもありました。トークセッションでもゲスト・登壇者・来場者で初顔合わせが実現できました。
- 5 ブースに立ち寄ってくれた研究者、もと研究者など多数。今後は彼らと交流を密にし、出版物の制作などを一緒にやっていきたいと考えています。その話は既に具体的に動いており、メーリングリストなどで現在議論中です。
- 6 特に近くに分野も似ていて、行う実験の一部も似ている団体があったので、自然とお互いの企画に興味を持ち、お互いの企画をみて自分に足りないところや改善すべき点を知ることが出来ました。また科学館に勤めている方々が当団体の活動に興味をお持ちくださり、名刺交換などを行いました。
- 7 他出展者や参加者とイベント協力などを旨とした調整が始まっています。特に、今年初めて関わったメンバーが新しいつながりをたくさん作ってくれています。

②次回出展者・参加者へのメッセージ

- 1 社会とつながる絶好の機会です。是非ご自分の企画を出展しましょう。
- 2 いつも出展者として楽しく参加していますが、いつも来場者としてもアゴラを一杯楽しんでみたいと思っています。アゴラは、そんなワクワクが詰まったイベントです。
- 3 研究者の皆さん、皆さんが考えもしないような自由な発想がここにはあります。是非、参加してみてください。
- 4 あまりハードルを上げずに、身近な科学を広めるところからスタートしてはどうでしょうか!
- 5 こちらが一步踏み出せば、相手も一步近寄ってくれる。自信を持って研究を社会に発信しよう!
- 6 サイエンスは社会とつながっている実感が得られる場所が沢山あるので来て見て話してみよう。
- 7 思いがけない分野の方から興味を持ってもらえるので、自分たちの活動の幅を広げるよい機会になります。



③その他、出展者のみなさまより

- 1 今回のサイエンスアゴラにも是非出展したいと思っております。様々な方々に興味を持って頂ける出展企画を立案し、来場者・出展者の方々と充実したサイエンスコミュニケーションを行いたいと思います。
- 2 現時点ですでに十二分に活気あるイベントになっていると思います。より多くのブースを設置するためには仕方ない事かと思いますが、1つのブースあたりのスペースの手狭さを感じました。天気次第なので難しいかもしれませんが、外の公園部分をもう少し活用できないものかと感じました。
- 3 規模が大きすぎると、サイエンスアゴラの良さである人との出会いが、逆に減少する気がする。今のままで継続できればいいと思われま。しかし、認知度がまだまだ低いので、広報活動を充実させ、来場者数をもっと増えたいと思います。
- 4 毎回様々なテーマが設定されており、そのテーマについていこうとするだけで精一杯でした。気になる点は、テーマとは対照的に一般参加のブースがそれに適していないように感じます。結局は最先端の研究機関・研究者等は、他の普及活動の紹介のみであったり、逆に楽しい科学だけにとどまっていたりという点です。様々な取り組みがあつてのサイエンスアゴラだと思うのでそれはそれでいいと思うのですが、主催者のほうで、もう少し企画ブースを設定するなど内容を規定してもいいのかなと思います。
- 5 テーマの精神や企画意図に沿った出展や内容が多いとは思えません。テーマに沿った出展や出展者交流の説明と要請に工夫が必要かもしれません。もう少しゆとり会場全体をまわりたいところですが、出展者としては自らの出展をながしにするわけにはいかずもどかしいところです。
- 6 対象、テーマともに、広げ方・絞り方は、毎年ご苦労されているのではないかと思います。ただ、これと決めたら、ぜひブレずに貫いてください。今年のテーマは大変興味深かったのですが、結局イベント全体としてはかなり薄まってしまっていたと思います。毎年趣向が異なってもいいのではないのでしょうか。誰でも参加OKで、緩慢とし、来場者も閑散としたブースが多くなるよりも、もっと絞ってシャープなイベントにした方が、わざわざお台場までやって来る来場者も増えるのではないのでしょうか。また出展者の気持ちの持ち方も変わってくると思います。
- 7 科学と社会はとても重要だと考えた。どうして科学を学ぶ必要があるのかを理解させたり、感じさせたりしないと、科学離れが進むのではないかと思う。子供にも分かりやすく科学と社会は結びついて、だから今科学を学ぶ必要があるんだよ、ということ、科学は楽しいということ伝えていきたい。



**サイエンスアゴラ2015で
お会いしましょう。**

サイエンスアゴラ2015 (予定)

2015年11月13日(金)～15日(日)

東京・お台場地域にて開催

<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/>



サイエンスアゴラ2014